

海外安全対策情報（2019年10月～12月）

1 社会・治安情勢

(1) テロ等の傾向

ア パキスタンのテロ発生件数は、パキスタン軍等によるテロリスト掃討作戦により、2009年をピークに減少傾向にあるものの、引き続き発生しており、警戒を要する。テロ発生件数は前の期（2019年7月～9月期）に比して12件減少（53件→41件）、死者は35名減少（88名→53名）、負傷者は140名減少（221名→81名）した。（パキスタン平和研究所調べ。）

また、2017年2月から開始されている軍及び治安機関等による対テロ作戦（ラッドウル・ファサード（Radd-ul-Fasaad・脅威の除去））は引き続き国内各地で実施されており、テロリストの検挙、武器等の押収等一定の成果を収めている。今期においても、単独又は少数犯による自爆、襲撃及び簡易爆弾（IED）攻撃が主要なテロの手段として見られ、その標的の多くは軍・治安当局とその関連施設であるが、テロ組織の中には中国・パキスタン経済回廊（CPEC）や中国関連施設への攻撃を企図する組織もある。

11月29日、ラホールにおいて、幹線道路に駐車中のオートリキシャに積載された約5キロの爆弾が爆発した事案が発生した。本件犯行による死者はいなかったものの、パキスタン・タリバン運動（TTP）の別動部隊であるヒズブル・アフラールが犯行声明を発出した。

そのほか、12月1日には、アーザード・ジャンムー・カシミール（AJK）のパキスタン・インド管理ライン（LoC）沿いRawalakotセクタRakhchikriにおいて、パキスタン軍、インド軍との銃撃戦により、パキスタン軍兵士2名及び民間人1名が負傷するなど、依然として両軍による局地的な衝突が断続的に発生しており、多数の民間人が死傷している。

12月16日、KP州ペシャワール高裁直近の道路上において、オートリキシャに仕掛けられたIEDが爆発し、少なくとも11名が負傷。テロ対策局による捜査の結果、アフガニスタン国籍の被疑者1名が逮捕された。同人は、アフガニスタンを本拠とするTTP司令官の命令により、本件犯行に及んだ旨供述している。

イ 旧連邦直轄部族地域（FATA）を含むKP州においては、11月12日、KP州北ワジリスタン部族郡においてIEDが爆発し、定期巡回中だったパキスタン軍兵士3名が死亡、1名が負傷した。

12月1日、同じくKP州の北ワジリスタン部族郡において、テロリストらが辺境警備隊（FC）哨所を攻撃し、治安部隊とテロリスト・グループ間で銃撃戦が発生。準軍部隊兵士1名及びテロリスト2名が死亡、兵士2名が負傷するなど、軍又は治安当局とその関連施設をターゲットとしたテロが発生した。

また、都市部や地方別に関わらず、治安当局によるテロリストの拘束事件及び武器・弾薬等の押収事件も多く確認された。こうした状況から、治安当局による徹底した取締りが行われた一方、都市部においてもテロの脅威は存在している。8月21日、イスラマバード市内I-11地区（大使館から南西に約15km）において、警察検問所に対する銃撃テロ攻撃が発生、警察官2人が死亡、1人が負傷するなど、テロの潜在的脅威は依然として存在する。

(2) 各種デモ

ア 当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による政府機関に対する労働環境改善要求等の抗議活動が行われる傾向にある。

インド政府による、インド側カシミール地域の現状変更措置に抗議し、「カシミールへの連帯」を標榜して、全国各地でデモが繰り返された。パキスタン政府は、毎週金曜日を「カシミールへの連帯の日」として、国民に対して抗議の姿勢を示すよう呼びかけており、定期的にカシミール関連のデモが実施されている。

イ 10月末から11月13日まで、イスラマバード市内において、宗教政党JUI-Fの呼びかけによる反政府デモが実施され、国内各地から約3万8000人がイスラマバード市内に結集し、座り込みによるデモを行った。

治安部隊等との大規模な衝突は確認されなかったものの、デモ隊の政府関連施設内への突入を防ぐため、市内では主要幹線道路上にコンテナを設置する等の大規模な交通規制が行われたため、激しい交通渋滞や物流が滞る等の影響が生じた。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 邦人被害事案

なし。

(2) 銃器使用犯罪

本期間においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が散発的に発生している。

8月13日、イスラマバード市内各地で、独立記念日の祝砲とみられる発砲により、複数の死傷者が発生した。イスラマバード警察では、同市内における祝砲を禁止しており、厳重に取り締まると発表している。

12月13日には、イスラマバード市内に所在する国際イスラム大学内で、学生グループ同士のトラブルにより、一方のグループが拳銃を発砲し1名が死亡、13名が負傷する事件が発生した。

治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器の蔓延が問題となっている。

(3) 招き入れ型侵入犯罪

イスラマバードは富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に荷担する事件が時折発生している。2017年9月には、ラーワルピンディー市内において、中国人が帰宅途中に金品を強奪され、警察による捜査の結果、同中国人の元運転手が事件を手引きしていたことが判明した。また、当地警察は、ガス、電気会社の職員を装った強盗が、家主の不在間に機器の点検目的を装い家屋に進入し、金品を盗む事件が増加傾向にあるとの注意喚起を出しているため、在宅の有無にかかわらず施錠を行うほか、使用人、警備員等への指導を徹底する必要がある。

(4) 名誉殺人

当地では、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される名誉殺人が跡を絶たない。パキスタンの保守的なイスラム社会では、毎年数百人の女性が名誉殺人の犠牲になっており、今期も凄惨な殺害事件が発生している。

(5) 性犯罪及び虐待

当地では、強姦を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は多いと言える。同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出ないことも少なくなく、被害実態は正確に把握できない。

(6) その他

本期間においても連日、不法な銃器・爆発物・薬物・酒類の押収事案が報じられた。これらの事案は、厳重な警戒下にあるイスラマバード市内においても、テロ発生の可能性は依然として排除できないことを示している。

当地の空港で勤務する連邦捜査局（F I A）職員3名が、旅客のパスポートやID等の個人情報を闇市場で2,000～3,000ルピーほどで売買していたことが判明した。盗用された個人情報は携帯電話番号の違法登録に利用されたとみられる。

3 2019年1月から2019年12月までのテロ事件発生状況

1月	26件, 死者	30名, 負傷者	69名
2月	21件, 死者	22名, 負傷者	47名
3月	21件, 死者	26名, 負傷者	73名
4月	23件, 死者	54名, 負傷者	97名
5月	18件, 死者	49名, 負傷者	87名
6月	25件, 死者	33名, 負傷者	55名
7月	20件, 死者	38名, 負傷者	111名
8月	21件, 死者	31名, 負傷者	83名
9月	12件, 死者	19名, 負傷者	27名
10月	10件, 死者	10名, 負傷者	19名

1 1 月	1 7 件, 死者	2 7 名, 負傷者	3 8 名
1 2 月	1 4 件, 死者	1 6 名, 負傷者	2 4 名

(出典：パキスタン平和研究所)

4 安全を考える上で参考となる事件等（報道ベース）

- 10月9日夜から10日にかけて、アーザード・ジャンムー・カシミール（AJK）管理ライン（LoC）沿いにおいて、印軍からの攻撃により、パキスタン側兵士1名及び民間人1名が死亡、民間人14名が負傷。
- 10月16日夜、KP州バジョール部族郡において、PPPの地元副代表が身元不明の狙撃犯により射殺された。
- 10月30日、KP州バンヌーにおいて路肩に仕掛けられていた爆発物が爆発し、治安部隊員2名が死亡。
- 11月4日、KP州北ワジリスタン部族郡 Mir Ali 地域において、道路脇に仕掛けられたIEDが爆発し、車両に乗って巡回中だった兵士2名が死亡、1名が負傷。
- 11月5日、KP州DIカーン Kulachi 地域において、ミリタントらによるテロ攻撃が発生し、辺境警備隊（FC）隊員2名及び民間人1名が死亡、FC隊員2名が負傷。
- 11月12日、KP州北ワジリスタン部族郡においてIEDが爆発し、定期巡回中だったパキスタン軍兵士3名が死亡、1名が負傷。
- 11月14日、KP州ペシャワール郊外の Mian Gujjar 地域において、身元不明の狙撃犯らの銃撃により、テロ対策局（CTD）高官1名が死亡、通行人2名を含む3名が負傷。
- 11月24日、KP州北ワジリスタン部族郡 Razmak 郡（tehsil）の道路脇に仕掛けられた爆発装置が爆発し、定期巡回中だった兵士3名が負傷。
- 11月29日、ラホール Chaurji 地域において、リキシャー（オート三輪）内に置かれたIEDが爆発し、少なくとも10名が負傷。
- 12月1日、アフガニスタンとパキスタンの国境付近のKP州北ワジリスタン部族郡において、テロリストらが辺境警備隊（FC）哨所を攻撃し、治安部隊とテロリスト・グループ間で銃撃戦が発生。準軍部隊兵士1名及びテロリスト2名が死亡、兵士2名が負傷した。
- 12月1日、アーザード・ジャンムー・カシミール（AJK）の管理ライン（LoC）沿い Rawalakot セクター Rakhchikri において、印軍とパキスタン軍との銃撃戦により、パキスタン軍兵士2名及び民間人1名が負傷。
- 12月3日、KP州バンヌー Janikhel において、ミリタントの隠れ場所への踏み込み捜査を実施した治安部隊とミリタントらとの間で銃撃戦が発生し、兵士1名及びTTP (Akhtar Mohammad グループ) 所属テロリスト1名が死亡、兵士3名が負傷。
- 12月4日夜、KP州北ワジリスタン部族郡 Boya 郡（tehsil）において、

治安部隊とテロリストらの間で銃撃戦が発生し、兵士2名及びテロリスト2名が死亡。

- 12月7日、ペシャワール警察はペシャワールにおいて捜索作戦を実行し、爆発物をペシャワールからラホールへ運んでいた、アフガン難民のテロリストと見られる女1名を逮捕。
- 12月11日、ラホールにおいて、暴徒化した数百名の弁護士らが、個人的なトラブルの復讐と称し、パンジャブ州心臓病研究所を襲撃。医師らが避難したことにより、重体の患者4名が死亡。
- 12月16日、KP州ペシャワール高裁の外側において、オートリキシャーに仕掛けられたIEDが爆発し、少なくとも11名が負傷。同リキシャーの運転手が逮捕された。
- 12月18日、KP州ローワー・ディール Markhanai 橋において、ポリオ予防接種チームを護衛していた警察官2名が、狙撃犯に銃撃され死亡。
- 12月19日朝、KP州ラッキー・マルワトにおいて、何者かが自爆し死亡。巻き込まれた死傷者はいなかった。ポリオ予防接種チーム、または、ムシャラフ元大統領への死刑判決に対する抗議集会を狙っていたとみられている。
- 12月19日、アフガニスタンとの国境に近いKP州ハイバル部族郡ランディ・コートルにおいて、路肩に仕掛けられた地雷が爆発し、定期巡回中だった辺境警備隊（FC）隊員1名が死亡、3名が負傷。
- 12月25日、KP州ローワー・ディール Shawa Adenzai において、治安部隊とミリタント間の銃撃戦が発生し、民間人1名が死亡。
- 12月25日、KP州北ワジリスタン部族郡 Shewa 郡 (tehsil) Madaini 地域において、武装したミリタントらが治安部隊一行を攻撃し、兵士1名が死亡、3名が行方不明。

5 誘拐・脅迫事件発生情報

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件が頻繁に発生している。誘拐・脅迫事件の背景としては、テロ組織による、誘拐事件を利用した政府等への身代金等の要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、一般犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な労力・時間を要すると共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。今期も女性や子供が性犯罪目的で誘拐される事件が多く報道された。

AP通信は、2018年以降、629名のパキスタン人少女及び女性が、中国に人身売買されていると報じているが、中国政府は否定している。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

これまでのところ、邦人及び日系企業に対する脅威情報には接していないものの、2017年5月にはクエッタにおいて中国人の誘拐・殺害事件が発生したほ

か、同年7月にも、カラチ市内の幹線道路において中国人技術者を対象とした爆発事件が発生するなど、外国人が、事件に巻き込まれるケースも発生している。

活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、先ずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、現地治安当局による安全対策がなされないばかりか、速やかな退去を命ぜられ、また犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続きを行うことが必要である。なお、手続きを行ったにもかかわらず、政府からの入域許可が得られない場合には、安全上の問題が生じる可能性があるため、当該地域への入域は控えることが望ましい。

(以上)